

## 第32回 三郷市下水道事業審議会 議事録

1 開催日時：令和5年12月21日（木）10時00分～12時00分

2 開催場所：三郷市役所 6階 第2委員会室

3 出席者 7名（委員総数8名）

（委員）

塩田会長、大島副会長、佐久間委員、梅野委員、篠塚委員、堀切委員、小島委員

（事務局）

木津市長（以下、市長）

相馬建設部長

広瀬建設部副部長兼下水道課長

下水道課：金子下水道課長補佐

浦川下水道課長補佐兼工務係長

澤野主幹兼会計業務係長、和田主任、森主事、川島主事

（事務局補助）

有限責任監査法人トーマツ 新沼、林

4 議題

三郷市公共下水道事業経営戦略案の策定について【諮問】

5 議事内容

（1）開会

●（事務局）

[開会]

●（市長）

[委嘱書手交]

●（市長）

[市長あいさつ]

●（市長）

[委員の出席状況を求める]

- (事務局)  
[委員7名が出席していることを報告]
- (市長)  
[会長・副会長選出]
- (会長)  
[会長あいさつ]
- (副会長)  
[副会長あいさつ]
- (市長)  
[諮問書手交]
- (事務局)  
[事務局職員紹介]

## (2) 議事進行

- (会長)  
[会議録の署名委員について、佐久間委員と梅野委員を指名]
- (会長)  
[議事内容が非公開情報に該当しないことについて確認]
- (会長)  
[傍聴者の有無について報告を求める]
- (事務局)  
[傍聴の申し込みがないことを報告]

## (3) 議事

三郷市公共下水道事業経営戦略案の策定について【諮問】

- (事務局)  
[議題について、資料に基づき説明する]

●（委員）

資料21ページの経費回収率の推移について、令和2年度に下水道使用料の値上げをしたとのことだが、値上げ前の経費回収率を教えてください。

また、資料28ページの経常損益の推移について、物価高騰をどこまで見込んでいるのか説明をお願いします。

●（事務局）

経費回収率について、平成30年度ですと61.6%となっています。

物価高騰対策に関しては、汚水処理をしている中川流域下水道での物価上昇を見込んでいます。そのほかの人件費などは大きく変わることはないというところで、横ばいで考えております。物価高騰対策としては光熱水費関係をしっかり見込んでいますので、支出の状況を反映させ、シミュレーションを行っています。

●（委員）

一般会計からの繰入金があり、赤字補填3億ほどという話もありましたので、それで黒字になっていると思っています。資料の29ページ目で約10年後には赤字となることを見込まれますとありますが、今後、一般会計からの繰入金が担保されているのか将来の見通しを教えてください。

併せて、経費回収率について、令和3年度、三郷市は78.2%で、類似団体は103.8%となっており、当市はとても低い現状ですが、今後のどのような状況になっていくのかを教えてください。

●（事務局）

赤字補填の見通しについては、財政課の見解として、今から5年程度は同額の金額を担保すると話をいただいています。そのため、見通しとしては5年程度見込んでおり、その後も0になることはない話をいただいています。また、5年に1度経営戦略の見直しを行うため、次の見直し時期には、より正確なものになると思われます。

資料21ページの経費回収率について、現在約8割ですが、100%までの20%が不足部分であり、この部分を赤字補填しています。今回計画を作成する上で、不足部分の20%をどのようにして埋めていくのが課題の一つになるかと思われます。

●（会長）

他に意見はありますか。

●（委員）

減価償却費の部分については、一般的な解釈とは異なると感じており、過去に大きく投資した時期とそうでない時期でだいぶ違うと思います。公営企業会計は特殊な部分があると感じますし、今日1日ではこの内容を理解することは難しいと思いました。もう少し勉強してきますのでよろしくをお願いします。

●（会長）

他に何かございませんでしょうか。

●（委員）

赤字、黒字というのは初めて聞きました。値上げするのは腹が立ちますがしょうがないと思いました。

●（会長）

他の委員より何かございませんでしょうか。

●（委員）

下水道事業については不勉強な部分があり、企業会計に関してはプロなのですが、公営企業については特殊な部分があり、今日の説明を踏まえ、勉強していきたいと思えます。

●（会長）

他に何かございませんでしょうか。

●（委員）

27ページ目の建設改良費の部分で、直近の管渠（新規）が突出している状況ですが、400億円の事業費が必要とのことで、新規管渠の見通しを教えてください。

●（事務局）

新規整備の見通しについて、今、市街化区域を整備しており、国から示されている令和8年度までに新規整備は補助金が付くという話がある中で、令和8年度まで年間で約10億円、11億円の新たな新規整備をしています。それ以外、市街化調整区域を整備するにあたっては約400億円程度かかると思われます。この費用に対しては、費用対効果を考えながら整備をするか見送るかの課題になってくると思われます。この部分も踏まえて経営戦略の中で考えていければと思います。

●（委員）

下水道の全体計画区域が、費用対効果を見ていく中で、合併浄化槽の視点が出てくるかと思われますので、庁内で連携を図り、生活排水の処理として100%になるように考えていただきたいと思います。

また、老朽化した管渠の更新、耐震化、国でいうところの国土強靱化など建設投資の重要な部分で、効率的な投資をしていくためには、優先順位をつけて投資をしていく必要があると思います。建設改良費を平準化していくために、できるだけ市民にとってもわかりやすいように整理していただければと思いますので、資料作成の際にはご留意いただければと思います。

●（会長）

他に何かございませんでしょうか。

●（委員）

人口の関係で、少子化で人口が減っていく中で減少率をどのように試算しているのか、また、三郷市の少子化対策としての施策や検討を教えてください。また、上水道と下水道を一つにした場合のメリット、デメリットなどあると思いますが、一つにすることを検討しているのかを教えてください。

●（事務局）

人口の推移は令和元年度に市で、別紙の人口ビジョンを出しています。目標とする推計、現実的な推計、下位推計の3種類があり、この資料だと現実に基づいた推計で積算しております。

少子化の支援に関して、料金の部分に集中して説明すると、水を使いやすい価格帯の料金上昇を抑えるという料金体系にする、また基本料金を減免する、基本料金を超えた部分については減免するといった形がございます。ただ、子育て施策は市の施策と大きく関わってきます。そのため、市と連携しながら進めていきたいと考えています。

組織の統合メリット、デメリット、状況について、メリットは、水道でも下水道でも同じような仕事を同じような形でやっているため、それを統合して、スケールメリットが出ることで、人力的に削減でき、コストを下げることができると考えています。また、統合することで、人員が大きくなるので、技術的な確保、知識を共有できるため、人為的な部分でもプラスになると思われます。

デメリットについては、考える限りあまり思いつかないかなと思われます。なぜやらないのかという理由が2つありまして、1つ目が広域化と民営化になります。2つ目が雨水の問題です。1つ目の広域化と民営化については水道が広域化になる可能性があるという話と下水道事業を含め民営化を進めるよう国の圧力が高まっているため、どちらかの組織が無くなってしまう可能性も見えてきたところがございます。

ます。2つ目は雨水の問題で、昨今のゲリラ豪雨や線状降水帯の関係で雨水、治水の部分が市町村の中でも大きな役目になっており、雨水、治水を下水道事業でやるのか、それとも市の中でやるのかで組織の形、人数が大きく変わってしまうためです。

●（委員）

資料18ページ目で水洗化率が89.9%、約9割で1割は接続しておらず、料金を回収しないと赤字が膨らむため、その1割の方に早く接続してもらうための施策が必要かと思われます。その部分について、今回の計画に入れるかは別として、下水道課では、そのような方にどのように接続してもらうようにしているのか教えてください。

●（事務局）

接続率の向上について、新規整備の際には事前に地域住民の方に下水道説明会を行い、その中で接続に関する具体的な周知を図っています。一方で1割の方がつないでいないという状況については、供用開始して1年後に接続の勧奨通知を送付し、また最近では、ららほっとみさとで下水道の施設や維持管理のパネルを展示して、下水道施設を身近に感じてもらえるようアピールして下水道の役割を市民に広めていくことで接続につなげていければと考えています。

●（委員）

総務省で企業債の借入に対して、利率の高いものについては借換債の制度があるかと思いますが、三郷市は企業債の償還金も多く、3条では利息も3億くらい払っているんで、利率の高いものに対して借換ができればと思いますが、その辺のシステムについてはどのように考えていますか。

●（事務局）

今のお話は繰上償還のことになるかと思いますが。制度としては公的資金の繰上償還はあるのですが、下水道については該当しない状況になっています。繰上償還をするためには、コンセッション方式を取る自治体が該当し、程度の高いものとなっていますので、なかなか手を出せない状況になっています。

●（会長）

ありがとうございました、よろしいでしょうか。では本日の議事はこれで終了となります。進行を事務局にお戻しします。

● (事務局)  
[副部長あいさつ]

● (副会長)  
[あいさつ]

● (事務局)  
[閉会]